



デンマーク王国 DATA

人口582万人、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



洋上風力発電パークイメージ(State of Green HPより)



小林 功人

在デンマーク日本大使館二等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

環境パフォーマンスインデックスNO.1に輝いた デンマークが目指すサステナブルな未来

先日発表されたイェール大学およびコロンビア大学による環境パフォーマンスインデックス(Environmental Performance Index)で、デンマークが1位にランクインしました。時を同じくして、デンマーク政府や企業は、新型コロナウイルスによる不況からの早期回復を見据え、サステナブルな未来に向けた計画を次々と発表し、自国のポテンシャルを国内外へと発信しています。

1. 気候行動計画(Climate Action Plan)

デンマーク気候・エネルギー・供給省が発表した政府案の六つの柱の中で、目玉となるのは①再生可能エネルギー島建設計画です。これは、2030年までに北海の人工島とバルト海上のボンホルム島に、それぞれ2GW規模の洋上風力発電の建設を開始するものです。これにより、今まで再生エネルギーの活用が進んでいなかった国内産業や欧州他国にも、グリーンな電気の供給が可能になります。本計画は、その他、以下の5本の柱で構成されています。②未来のグリーン技術開発(グリーンで持続可能な燃料など)、③エネルギーの効率的利用(建物のエネルギー効率改善など)、④グリーンな熱供給(持続可能な木質バイオマス利用のための法的基準の整備など)、⑤産業との連携(グリーン電力、エネルギー効率の改善)、⑥廃棄物処理産業のグ

リーン化(リサイクル、循環型経済の促進)。

デンマークは本計画に基づき、2030年までにCO₂を1990年比70%削減すべく、産官学が一丸となって持続可能な社会の実現にまい進していく意向です。

2. 大手運輸・エネルギー企業による持続可能な燃料の生産に向けたパートナーシップ

前記1と合わせ、デンマークの大手運輸・エネルギー企業6社は、水素など運輸部門向けの持続可能な燃料の工業生産に向けたパートナーシップを発表しました。コペンハーゲン空港、A.P.モラー・マースク(海運)、DSV Panalpina(運輸)、DFDS(海運)、スカンジナビア航空およびエルステッド(電力)は陸運、海運、航空向けの持続可能な燃料の生産に向け、共に動き出しました。彼らが目指す未来は、バスやトラックが水素燃料で走り、船舶が再生可能なメタノール燃料で航行し、航空機が再生可能なジェット燃料で飛行する世の中です。燃料の生産に利用する電力は、前記1のエネルギー島の一つであるボンホルム島沖の洋上風力発電から供給されます。本計画は早くも2021年以降に第一段階の投資が決定される予定です。

デンマークは市場としては小さいかもしれませんが、国を挙げて取り組む、持続可能な社会を実現するためのビジネスでは、欧州または世界のマーケットへと打って出するためのサステナブルな技術や企業が見つかる国かもしれません。